

## 専務理事訪問記

### 第9回 マニラ訪問記～FAPRA 会議に出席して～

専務理事 岡部 義裕

訪問日 2014年9月7日(日)～10日(水) 4日間

## 大都市マニラ

フィリピンは7000余りの島国からなる海洋国家である。首都マニラは北部のルソン島にあるが、この島にはケソン市という大きな町もある。メトロ・マニラは1200万人の人口を有する巨大都市で、更なる発展や観光客受け入れには、空港や道路・港湾などインフラ整備が必要だ。日本の成田や羽田からは4時間の飛行時間で、時差は1時間である。アセアンでは一番近いところにある大国である。



### 通勤時間帯はラッシュが続く

私どもの宿泊したホテルは新しいホテルでソライユ・ホテルである。マニラ湾を望むところにあり、新興財閥大手の SM グループがこのベイ・エリアを開発中である。第17回のアジア小売業者大会の会場もこの地域にある SMX コンベンションセンターである。ホテルにはカジノがあり、24時間楽しめる。

## 人口1億人を超えた成長国

フィリピン共和国は今年、人口が1億人を超えたそうだ。人口構造も若く、人口ボーナスの効果が期待できる。英語も堪能で人材豊富な国である。出稼ぎ労働者1200万人の本国送金額は毎月20億USドルである。国内でもコールセンターなど英語力を生かした受託ビジネスが成長している。

ところで、フィリピンは16世紀から300年間もスペインに統治された。それゆえキリスト教徒がほとんどである。中国大陸にも近いのでスペイン統治前には、すでに中国人が商業の分野で活躍していた。それゆえ、マニラの中華街は世界一古いといわれている。

米国が、19世紀に入ってから統治したこともあり、フィリピンでは米国への親近感が強いが、日本に対してもたいへん親近感を持っている。なかでも車は中古車中心に急増しているが、トヨタなどの日本車の存在が極めて大きい。

## 巨大モールを相次ぎ開発するSMグループ

フィリピンの経済界は、中華系やスペイン系の財閥が様々な業種に進出してコングロマリットを形成している。SMグループは小さな靴屋から事業を起こして、いまや世界有数、アジア屈指の財閥企業である。SMグループは巨大なショッピングモールを全国に展開している。われわれのホテルの近くのMall of ASIAは最新のショッピングモールで、アイススケートリンクなどもある。いわゆる華僑系の人口はマニラでは1.2%と他のアセアン諸国に比べると比率は低いですが、経済の実権は把握している。



## ベイ・エリアのMALL OF ASIA(SM MALL)

フィリピンはGDPの一人当たり年間所得は平均で2700ドルだが、マニラで

はこれが 4800 ドルとなる。街中ではセブンイレブン、ファミリーマート、ミニストップ、サークル K などのコンビニエンス・ストアも多数見かけるが、こうした中間所得層の増加に対応しているといえる。

マニラの中心部のマカティ地区は金融・商業の中心地で5つ星ホテルも多数あり、世界有数のブランド品を販売するお店が軒を連ねる。資生堂、ユニクロ、無印良品、ダイソーや日本食のレストランも充実しており、ラーメン・とんかつ・てんぷらが人気だ。

昼食時にお店に入ると、900円程度のラーメンやカツドンがどんどん注文されている。

### 日系コンビニの拡大続く

ベイ・エリアにあるミニストップのお店を訪ねて、越川 AVP（副社長補佐）から話を聞いた。このお店は2013年の12月にオープンした比較的新しいお店で、120平米程度の広さに2000アイテムの商品が並んでいる。店内にはコーヒーやチキンから揚げなど軽食が食べられるイート・インコーナーがあり、フィリピンのお客は惣菜にライスか麺類の組み合わせを好むという。24時間営業であり従業員はある程度の時間で交代する。ミニストップは小売を初め金融・不動産などを展開するロビンソングループと資本を出し合っている。

（ロビンソン51%、三菱商事24%、ミニストップ25%）現在フィリピン全土に429店あり、直営店割合は39%。日商4.8万ペソ（15万円程度）。お客の購入額平均は52ペソ（150円程度）。



（左から 緒方・国際担当部長、筆者、ミニストップ・越川氏、土方・日本小売業協会会長、近江・国際担当部長）

コンビニ市場はフィリピン経済の成長とともに拡大しており、好立地への店舗の新設、価格や品揃え政策、物流システム、従業員の確保のなどが課題になっているという。

フィリピンの小売業界は依然としてサリサリストアといわれる伝統的な小規模店舗のシェアが80%を占めているが、近代的なスーパーのシェアも20%と高まってきており、日本の小売やフードサービスの進出余地は大きい。しかし、物流システム、なかでも冷凍システムの物流は遅れており大きな課題である。(文責 岡部)